



谷口 議員



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

町のクマ対策について

村中町長

安全確保のため 今後も有効な方策について検討する

□質問・谷口議員
環境省によると、今年度のクマ被害による死者数は全国で13人（11月5日時点）となり、統計を取り始めた2006年度以降で過去最悪の数字を記録しています。クマが人里や市街地に降りてくる要因として、えさ不足が深刻化しています。

地域によっては、イベントの中止や保育園、小学校の送迎強化など生活や経済活動に大きな影響が出ています。町内においてもクマの目撃により良佳村エリアの施設閉鎖が繰り返されています。そうしたことから次の3点について町長に伺います。

(1) 町内には、北4線から北1線（19区から15区）にかけて総延長1720mの電気柵が設置されていますが、これはシカが用水路への転落防止のものであり、クマ対策になっていません。そこで、人をクマから守る対策として良佳村エリアに電気柵を設置する考えはありますか。

(2) 自治体によっては、公務員が獣害対策を担当するガバメントハンター（公務員ハンター）を置いています。狩猟だけでなく野生動物の行動、生態などの知識を身につけて地域の獣害対策を担う職員に



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

静かな図書館から 「にぎやかな図書館」施設に

北川教育長

町民の皆様からのご意見等を十分考慮し よりよい図書館運営に努める

□質問・遠藤議員
現在、休館日や開館時間の見直しに向けた試験運用が行われていますが、町民の中には「これで図書館の役割が十分に果たせるのか」との声があります。今後どのような方向で図書館を整備・運営していく考えかお伺いします。

また、図書館の利用者数の伸び悩みが課題となっている現状がある中、全国では、会話や軽食、学習、交流など多目的に利用できる「にぎやかな図書館」が広がり、まちづくりの拠点として注目されています。本町においても、図書館を地域交流や世代間のつながりを生む拠点として活用する考えがあるのか教育長の考えを伺います。

■答弁・北川教育長
試験的運用を通して、町民の皆様からいただいたご意見や感想を十分考慮し、これからのよりよい図書館運営に努めていきたいと考えています。

近年、「図書館は静かに本を読む場所」という常識が大きく変わりつつあり、「にぎやかな図書館」といった新しい形の図書館が生まれてきています。

図書館の本質は、「人が集い、考え、行動を生み出す場」にあり、静けさと賑わいが共存する空間、誰もが自然に学び、語り合える環



遠藤 議員

境は、地域の新しい可能性を探る手がかりがあるように思います。

本町の図書館は、これまでも多少の会話は禁止しておらず、また、ペットボトルや水筒などに入った飲み物は許可していますが、図書館利用以外での地域交流の場としての役割は担っていない状況です。ので、町民の皆様の生活をより豊かにし、まちづくりにもつながる施設として発展できる図書館運営を検討していきます。

□遠藤議員 例えば図書館を考える会や町民と共に作る図書館会議、パブリックコメントなど、図書館について一緒に考える場を設けるなど、新庁舎の図書館をどのように作っていくのか町長の考えを伺います。

■村中町長 複合庁舎については、まだ基本設計の段階のため確定したことはお知らせできませんが、ゆつくりと静かに本を読める図書館とは別に、新しい複合庁舎内に新聞や雑誌のコナーを設け、子どもたちが少し騒いでもいい「にぎやかな図書館」のような場を設けるなど、全て同じ場所にしない方法もあると思っています。

図書館を縮小する方向ではなく、より利用できるような仕組みがでないか考えています。図面も確定していませんが、図書館は維持していきたいと思っています。

なります。町として役職を設置する考えはありませんか。

(3) 9月1日より市街地に出没したクマを各市町村の判断で駆除できることが可能になりました（緊急銃猟）。これは、住民の生命を守るために必要な措置と思いますが、町の考えを伺います。

■答弁・村中町長
(1) について、比布幹線沿いに設置された電気柵は、平成25年に、当時の東地区環境保全活動組織において、主にエゾシカの農地への侵入と用水路への転落防止を目的に設置された施設で、毎年、春に設置し、設置期間中の草刈り、秋には撤去するなど地域の方が管理されています。

熊対策の電気柵は、侵入を防ぐことができる有効な方法であるとして理解しており、商工観光課においてもヒグマ出沒への対策は検討をしています。良佳村エリアのキャンプ場では幼児や児童の利用が多く、誤って電気柵に触れる可能性もあるため、来場者への安全配慮や設置場所などにも課題があり、設置については困難であると考えます。

今シーズンも、カメラを設置して毎日確認してきましたが、利用者の安全確保のため、今後も有効な方策について検討してまいります。

街中ベンチを設置する考えは

□遠藤議員 高齢者が自宅で安心して暮らし続けるためには、外出しやすい環境づくりが欠かせません。しかし、「歩き疲れたらどうしよう」「トイレが近くにない」「暑さや寒さが心配」などの理由から、外出を控える高齢者も少なくありません。

街中ベンチの設置や休憩できる場所の整備について、どのようにお考えですか。

■村中町長 生活支援体制整備事業の委託先である生活支援コーデイネーターを中心に、「びっぷの和」として、町民と行政が協力しながら地域の声を聞き、「地域資源の把握・発掘により、高齢者が真に求める支援・サービスの構築を図る」活動を進めています。

道路法や交通上の安全性も視野に入れながら「びっぷの和」を中心に、本町においての進め方を協議していきます。

□遠藤議員 「あなたのベンチ」誰でも座れるベンチ」などの表記をするなど、各課とも連携して実現してほしいと思います。

■村中町長 良い事業だと思いますので、関係課とも協議をしていきたいと思っています。

(2) について、近年の鳥獣被害の深刻化や有害鳥獣駆除の担い手不足などを背景に、その取り組みは、全国的に注目されているところです。

有害鳥獣駆除を担っていたいている本町猟友会の会員数は14名で、うち11名が銃器によりヒグマを駆除できる資格を有しています。狩猟を生業としている会員がいること、また、北海道では専門的な対応の必要性が高い事案に対し、専門家を現地に派遣する「ヒグマ緊急時等専門人材派遣事業」の仕組みを利用できることから、早急にガバメントハンターを配置する考えはありません。

(3) について、本年9月1日に改正鳥獣保護管理法が施行されたことに伴い、市街地等に侵入したクマ類を市町村長の判断で銃使用を許可できることとなりました。本町では、施行日に合わせ、緊急銃猟で生じた物的損害などが補償される緊急銃猟時補償用保険に加入するとともに、施行日前から、猟友会や旭川中央警察署などと、実施を想定した協議を重ねています。

緊急銃猟の実施は、住民の生命を守るための必要な措置と判断した際は、やむを得ないものと考えています。